

## 高校生の健全育成を進めるための地域活動について

千葉県立船橋法典高等学校 PTA

PTA会長 清水 裕美子

### 1 学校紹介

私たちの船橋法典高等学校は、昭和56年に開校し40年目を迎えます。「学修 創造 躍伸」を校訓に掲げ、緑豊かな環境のもと、一人一人を大切に丁寧な指導を徹底して行います。6クラスを7クラス展開し、すべての授業で少人数授業を展開しています。

学習については、朝自習を実施し、基礎基本を大切に丁寧な授業で、分かる喜びを大切に丁寧な指導をしています。進路指導を1学年から行い、その成果が表われ、令和2年3月の卒業生の中には、新たに千葉県立保健医療大学看護学科に2名、文教大学教育学部に1名進学することができました。

学校行事は、全生徒が一生懸命取り組み、盛り上がります。特に、昨年度の文化祭では、PTAと生徒と一緒に、手話ソングを発表することができました。

部活動では、昨年度、全国大会に、陸上競技部と書道部が、関東大会に、陸上競技部、女子サッカー部と写真部が出場しました。また、県大会では、卓球部男子が、団体戦5位、陸上競技部の女子駅伝が8位入賞を果たしました。今年度は、全国総文祭に書道部が出場し特別賞を受賞しました。さらに、今年度の1年生は、74%が部活動に加入しました。今後は楽しみです。

下に示す制服を着たかわいい2匹は、左が「ハウちゃん」、右が「デンくん」です。平成24年に作成したマスコットキャラクターで、学校の周りの森に住んでいるタヌキを参考に作りました。

本校は、「人づくり」を行う学校です。将来、家族を支え、地域に役立ち、豊かな人生を送る生徒を育成します。教員と保護者が連携して、大切な生徒を育てる学校であり続けようと考えています。



## 2 P T A活動

### 1 はじめに

#### 高校生の健全育成とは

高校生の健全育成とは「豊かな心」を育むことである。

高校生の健全育成を進めるためには、家庭や地域社会の教育力を充実させるとともに、「豊かな心」を育てるための体制作り、仕組みづくりが緊急の課題となっている。そのため「心豊かな高校生を育む家庭・学校・地域社会の教育力のあり方について」を見直すことが必要となってきた。

↓

個人として、社会として、「豊かな心」を育むためには家庭・学校・地域社会との連携が不可欠である。

↓

豊かな心とは

- ・他人を思いやる心
- ・正義感や公正さを重んじる心
- ・自立心、責任感のある心
- ・生命を大切にすること
- ・自分の頑張り、仲間の良さを認めることができる心
- ・最後までやり遂げる心
- ・問題解決、乗り越える心

など様々な力を身に付けていくことが健全育成となる。そのためには「家庭の教育力」「学校の教育力」「地域社会の教育力」を明確にし、連携のための仕組み作りを構築していかなければならない。

## 2 家庭・学校・地域社会の教育力

### ① 家庭の教育力

家庭は、家族とのふれあいを通じ、生きていく上での基礎的な力を育成する場となり、すべての教育の出発点である。しかし昨今、核家族化、少子化等により、家族間のふれあいや関わり合いが希薄になってきている。つまり、家庭の教育力が全般に低下してきている。毅然とした態度でしつけることができない、子どもの時に身に付けておくべき善悪のけじめや価値、規範を身に付けておくことが難しくなっている。子供

の心の教育は、大人の心の豊かな生き方と密接に結びついている。

### ② 学校の教育力

学校は大人になる過程で、人間として必要な知識・技術及び価値や態度の基礎基本を組織的・計画的に教育する場である。しかし、大人社会が学校教育に依存しすぎてしまい、学校の役割が肥大化してしまった。つまり、家庭や地域における子供の生活、社会体験の機会を減少させ、家庭や地域社会の教育力の低下を招いてしまった。そして、学校は、本来の教育の責任が果たせにくくなってきている。

### ③ 地域社会の教育力

地域社会は子供にとって、多様な体験を通して社会人として必要な知識や技術を身に付ける場であり、家庭や学校だけでは身に付けることができない様々なルールや社会習慣について学ぶことができる。しかし、子供は地域社会から疎遠な存在となり、地域社会との関わりが希薄になってきた。つまり地域の人々が助け合って生活する機会が少なくなり、教えあったり学びあったりする関係、ふれあいや連帯感が薄れてしまった。

子供たちの体験不足は、社会で生きていくための「やり遂げる心」「問題解決をする心」などの強い心、生きる力を育むことができにくくなったことを意味している。

### ④ 家庭・学校・地域社会の連携の現状

家庭の教育力が低下し、しつけや心の教育がおおざなりにされつつある。学校においても人間の心を豊かに育む教育よりも、知識獲得などの教育機能が突出し、成長発達の歪みを生み出すという問題を内在化させている。地域においても地域の子供は地域で育てるという意識が低下してきている。

このように家庭・学校・地域社会の教育力の低下によって、心豊かな生きる力を育む教育が機能しない状況となっている。このようなことから、家庭と学校と地域社会とがそれぞれの責任と役割を果たしながら連携協力することにより、また相互補完と相乗効果によっ

て、高校生の健全育成、豊かな心が育まれるのではないかと考えた。

### 3 本校の活動 連携のための仕組みづくり

本校でも、家庭・学校・地域社会が連携して、「豊かな心」を育むための推進が必要であると考えた。

「保護者と協力できる学校づくりを目指そう！」

↓

情報をオープンに保護者の意見が反映できる学校づくり

↓

#### ① 保護者の行事の参加

- 学校と家庭の連携 -

文化祭・体育祭



生徒・保護者・教職員が全力で行事を盛り上げることで、自らが、高校生が豊かな心を育む上での連携と考えている。文化祭では生徒・教職員・保護者と地域の皆様で「手話ソング」を企画することとなった。本校には手話や指文字を必要としている生徒が在籍している。本校の多くの生徒たちは日頃から「コミュニケーションをとりたい」という強い願いを持っていたが、正確な手話が伝えられるのだろうか。しっかり伝わるのだろうか。という不安から、なかなか関わるができなかった。ある生徒の「少しでもコミュニケーションをとりたい」という思いから、文化祭で手話ソングを披露しようということになった。毎日昼休みや放課後を利用して手話

の基本から練習し、「友達になりたい」という気持ちをこめて『ベストフレンド』という歌を手話で歌うことになった。その活動を知った保護者が「一緒に」練習を始め、文化祭1ヵ月前になると校長はじめ、教職員も練習に参加するようになった。文化祭当日は吹奏楽部の演奏中、生徒・保護者・教職員が一体となって手話ソングを披露することができた。このような自然な共同活動が連携であり、文化祭後には生徒たちは休み時間などに、手を交えて積極的にコミュニケーションをとるようになった。

#### ② 授業公開週間、授業参観

- 学校と家庭の連携 -



学校・保護者の連携の基本は「学校の様子を知る」「家庭の様子を知る」「生徒の様子を知る」「授業の様子を知る」など「知る」ことである。本校では授業公開週間を1学期と2学期に1週間設定し、授業・部活動を公開し生徒の良さ、抱えている課題を共通理解する場としている。保護者面談週間も1学期と2学期実施し、生徒の目標を実現するために連携をとっている。

#### ③ 生徒と保護者と教職員の共同活動

- 学校と家庭の連携 -

- ・下校指導
- ・美化活動
- ・あいさつ運動



保護者を中心に、定期的の下校指導、美化活動、あいさつ運動を実施した。生徒に声をかける、顔を合わせる事が身近なことになることで自然な関わり合いを持つことができた。保護者が学校で活動することが当たり前となり「ともに」活動する意識が強くなった。また

定期的に実施する「開かれた学校づくり委員会」では保護者、地域と学校で課題を確認し、お互いを知る有効な時間であった。

#### ④ 吹奏楽部、老人ホームへ

- 学校と地域の連携 -



吹奏楽部が学校近くの数多くの老人ホームを慰問している。これは吹奏楽部の生徒が自ら希望した企画である。生徒が主体的に、お年寄りの方々に喜んでほしいと、当時の音楽を演奏できるよう全員で練習し、表現する事は「豊かな心」を育むためには貴重な体験であった。

#### ⑤ 女子サッカー部 U-9 サッカースクール

- 学校と地域の連携 -



女子サッカー部が毎年、船橋市サッカー協会第4種委員が主催しているU-9サッカースクールに協力している。U-9(小学校3年生以下)を対象としたサッカースクールで、高校生がサブリーダーとして基礎的なトレーニングやミニサッカーなど運営・補助・指導を行っている。参加する子供たち一人一人が主役として楽しみながらレベルアップが可能で、想像力豊かなプレイヤーとしての機会を提供する。また、高校生も小学生にサッカーを教えることでサッカーの楽しさを始め、他者を思いやる心、リーダーシップなど、豊かな心を育むことができる体験であった。

### 3 まとめ

#### PTA活動を家庭と学校と地域の連携の架け橋にしよう

家庭と学校と地域が連携するためには、意図的な設定と熱意が必要である。現在本校では、PTAが様々な場面で架け橋となり、連携をはかっている。連携を推進するためには学校とPTAが窓口となり、計画していかなければならない。文化祭・体育祭等の行事、下校指導・美化活動・あいさつ運動などの活動、部活動などの地域との関わり、それらを推進していくためには強い情熱が必要である。「本気になって一緒に活動する」ことが自然な連携であり、生徒はそれらの活動を通して「豊かな心」を育てていくのだろうと考える。

